



鎌ヶ谷市国際交流協会広報誌

第75号

2012年(平成24年)7月7日
発行：鎌ヶ谷市国際交流協会
〒273-0195 鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷2-6-1
TEL 047-445-1141 (内550)
FAX 047-441-9400
<http://www.kifa.gr.jp>

設立25周年 新しい選択の岐路に立つKIFA

2012年度総会

茂野 昭会長の逝去を悼む

2012年度の総会は急逝された茂野昭会長への黙とうから始まりました——。茂野会長は2010年度の総会において鎌ヶ谷市国際交流協会（KIFA）の会長に就任されました。市内を代表する有力事業者（茂野製麺株式会社会長）として、市の国際交流事業に深い関心を寄せて、KIFAの会長職に就いていただきました。本市においては進展する国際化と急増する外国人居住者に対応して、市は「多文化共生推進」計画を進めています。KIFAにおいては、その施策に応じた事業変革が喫緊の課題でした。

開会あいさつで岡本副会長は「本当に突然なことでした。KIFAはいま、非常に大事な時期を迎えていました。そのようなときに茂野会長を失ったことは残念であり、無念でございます」と大きな支柱を失ったことへのお悔やみを述べ、「それが現実です。茂野会長の志を生かすためにも、ワカタネとの交流を始め、しっかりやっていくことが、われわれの使命ではないか」と述べて、曲がり角を迎えているKIFAの運営に際し「高い識見と深い洞察力に充ちた」茂野会長のご意志を生かしていくと弔意を表しました。続いて清水聖士・鎌ヶ谷市長からあいさつをいただきました。

清水聖士市長「今秋、ワカタネから高校生が来鎌します。交流再開の契機に」

KIFAの皆様には、鎌ヶ谷市の国際交流の推進に大変なご尽力をいただいております。そのことに関して、まずお礼を申し上げます。

このたびの茂野会長の急逝に関しては、本当に大変残念に思っています。茂野さんは日ごろから、若い世代が海外経験を持つことが大切だということをよく仰っておられて、個人でも「国際交流留学基金」にご寄付されるなど、若い世代の海外交流体験に大変熱心に取り組んでこられました。KIFAの皆様には、その意志を継いで、今後とも海外交流事業に取り組んでいただきたいと思います。

グローバル化というものは、私たちの生活の身近にも進んできておりまして、最近のことではギリシャで総選挙が行われました（注：5月6日の1回目の選挙）。過半数に与党の議席が2つ足りなかったことで、東京市場の株価が下がりました。鎌ヶ谷市においても国際化・外国人居住者が急速に増えて、平成18年度には1000人だったものが直近では1200人にまで増えています。このことから



大きな支柱を失う

茂野さんは会長に就任されるより以前から、長きにわたり理事、会計、監事と引き受けていただいております。

茂野さんは、市内における有力企業の経営者として地域振興、社会事業にも熱意を持っておられ、2010年KIFA会長に就任されてからは、若い世代に向けた事業の中でも特に青少年の海外交流・留学に関心が深く、世界で活躍する青少年育成への強いお志から、姉妹都市交流委員会の副委員長を務められ、KIFAの留学基金にも多額のご寄付をいただきました。

茂野会長のご遺志を受け継ぎ、地震等の影響で滞っていた留学事業の再開と留学基金の活用こそ、ご遺志を継ぐものとして心して行きたいと考えております。

ご生前のご遺徳と温容をしのび、心からご冥福をお祈り申し上げます。合掌

茂野昭KIFA会長は、かねてより病氣療養中の処、5月6日ご逝去されました。享年77歳。

通夜並びに葬儀告別式は5月15日、16日に茂野製麺株式会社の社葬を以って、馬込斎場にて、しめやかに執り行われました。



も多文化共生の推進は重要なことにもなってきています。

またこの9月には、ニュージーランドの姉妹都市ワカタネのトライデント高校生が、当市を訪れることになっています。両国で起きた震災等で停滞していた交流関係が、この機会に再開に向けて大きな契機になることは大変喜ばしいことです。これを機会に国際交流活動が今後ますます充実していくことを期待しています。（要旨）

新会長に長南 勇氏

鎌ケ谷市総合福祉保健センターの大会議室で5月20日（日）開かれた2012年度の総会は、冒頭の黙とうに続いて、あいさつに立った岡本副会長は、「KIFAは今年度設立25周年を迎えました。2011年度は市から、多文化共生社会を構築していくという流れが出てまいりまして、協会の中でそのことについて、いろいろ検討をさせていただきました。12年度はこれからのKIFA活動をどのような形で行っていくのか、非常に大事な時期を迎えることになりました」と、新たな選択に立っているKIFAの状況について報告しました。



続いて来賓の清水聖士市長から別稿のあいさつ（1面）、また土屋裕彦市議会議長からは「市議会として、みなさんの活動をバックアップしていく必要があると感じている。市の財政の問題もあるが、国際交流協会の皆さんが活動しやすい環境を整えていきたい」と激励をいただきました。さらに、岡本副会長から理事、法人・団体会員の紹介が行われました。

飯田文夫研修部会長の司会により、顧問の田澤進二朗さんを議長に選出し議案審議に入り、2011年度の「事業報告」「収入支出決算並びにKIFA基金・留学基金収入支出決算」について、各担当部会、執行部から説明があり「監査報告」のあと、各議案の一括審議がなされ拍手で承認されました。続いて2012年度の「事業計画（案）」とそれに伴う「収入支出予算（案）」等について、各担当部会、執行部から説明が行われ質疑応答のあと、いずれも提案通り承認されました。

本年度は規約により役員改選の年に当たり、議案審議終了後に開かれた臨時理事会において、新会長に長南勇

氏（前会計、個人会員）、会計に新しく川端正征氏（個人会員）が選出されました。その他承認された役員の方々は表の通りです。

ふれあいを基調に、役に立つKIFAを

あいさつに立った長南新会長は、KIFAは歴史上初めてとも言える、大きな変革の年になりましたと前置きして、昨年来、市から要請されている「多文化共生推進計画」に関連する国際関係行政の方針に対して、今後のKIFAが進むべき方向について、①「多文化共生センター」設置に向けての「連絡協議会」の設置②補助金の事業別配分③国際業務の整理・優先順位④自立化志向を目指す——など4項目にわたる課題をあげ、検討のため運営委員を構成員とする検討委員会を、すでに立ち上げている。年度内には結論を得たいとしました。

以上の課題の解決に向け、長南新会長は協会運営の精神として、「私の在任期間中はKIFA設立の原点である『人と人、心と心のふれあい』を基調とし、『役に立つKIFA・奉仕するKIFA』をモットーとして掲げてまいりたいと存じます。KIFA活動すべての面でこの精神を忘れないようにしていただければ幸いです」と表明、会員に協力を求めました。

2012年度鎌ケ谷市国際交流協会役員

（敬称略）

役 職	役員氏名	所属団体
会 長	長南 勇	個人会員
副会長	岡本 靖子	個人会員
〃	高橋 修司	鎌ケ谷市商工会
会 計	酒井 哲郎	個人会員
〃	川端 正征	個人会員
理 事	御代川泰久	鎌ケ谷市体育協会
〃	高桑 明	鎌ケ谷市スカウト連絡協議会
〃	高橋万里子	鎌ケ谷市子ども会育成会連絡協議会
〃	久野 義春	鎌ケ谷市芸術文化協会
〃	杉山 健治	鎌ケ谷市自治会連合協議会
〃	後関 俊一	鎌ケ谷青年会議所
〃	大澤 茂	鎌ケ谷ロータリークラブ
〃	坂本 雅和	鎌ケ谷ライオンズクラブ
〃	太田 侑子	鎌ケ谷国際文化交流会
〃	工藤 敬	千葉県立鎌ケ谷高等学校長
〃	小玉 秀史	千葉県立鎌ケ谷西高等学校長
〃	小川 宏宜	鎌ケ谷市小中学校校長会 （第三中学校校長）
〃	北村 眞一	鎌ケ谷市副市長
〃	皆川 征夫	鎌ケ谷市教育委員会 委員長
〃	川西 八郎	鎌ケ谷市教育委員会 教育長
〃	岩佐 昇	鎌ケ谷市役所 総務企画部長
監 事	私市富士弥	法人会員（私市醸造㈱）
〃	栗田 朝治	法人会員（ニッポー㈱）
	交流部会長 信夫 稔	個人会員
	研修部会長 藤井 明恵	個人会員
	広報委員長 平田 真裕美	個人会員

2012年度 法人会員 団体会員の紹介

●〈法人会員〉

- ・東葛食品㈱
- ・(有)岡田産業
- ・那須設計工務㈱
- ・学校法人一色学園
- ・(株)アメリカンランゲージスクール鎌ケ谷校
- ・私市醸造㈱（監事）
- ・森はり灸治療院
- ・(医) 爽歯みちのべ歯科医院
- ・(株)東京パッキング
- ・茂野製麺㈱
- ・(有)皆川不動産
- ・鎌ケ谷造園土木㈱
- ・(株)千葉銀行鎌ケ谷支店
- ・ニッポー㈱（監事）
- ・(株)エスティフーズ
- ・(株)仁陣
- ・(株)タニマ

●〈団体会員〉

- ・鎌ケ谷市商工会
- ・鎌ケ谷青年会議所
- ・鎌ケ谷市庭園業組合
- ・千葉県立鎌ケ谷高等学校
- ・千葉県立鎌ケ谷西高等学校
- ・鎌ケ谷市体育協会
- ・鎌ケ谷ロータリークラブ
- ・鎌ケ谷子ども会育成会連絡協議会
- ・鎌ケ谷市芸術文化協会
- ・鎌ケ谷ライオンズクラブ
- ・鎌ケ谷市自治会連合協議会
- ・千葉県立鎌ケ谷高等学校
- ・鎌ケ谷市小中学校校長会
- ・鎌ケ谷市スカウト連絡協議会
- ・鎌ケ谷国際文化交流会

事務局員 寺坂敬子・三塚敏子

●新任役員の就任コメント●

●新会計担当 川端正征

*交流の輪を広めていく

バブル崩壊以降、日本の地盤沈下は顕著になり、人口も通減傾向。なかなかこの閉塞感から脱出できず、この基調が微妙に我々の私生活に影を投げかけていますね。ここは一つ海外とのバリエーションを取り除き、視野を広げ、国際交流・国際親善を通し



て、局面の打開を図る必要性が増しているのではないのでしょうか。

まずは個人ベースから、文化面であれ教育面であれ言葉の面であれ、人と人、心と心の交流を国際的に深めて行くと、その輪が市ベースに、国ベースにと広がり、新たなもっと希望の有る時代に繋がるのではないのでしょうか。

KIFAの役割がより重要になっているさなか、私、皆様方と一緒に活動出来ますことを楽しみにしております。

●KIFA活動の原点 部会・委員会の取り組み●

●交流部会

*外国人参画の促進と魅力的な事業

交流の輪を広げることを第一に、まずはイベントに参加された人たちが及び県内外の大学留学生と連携した外国人ネットワークの構築を急ぐ必要があります。次に留学生同士の懇親会等への共同参画、在日諸施設、例えば教会・モスク・寺院などの宗教施設、大使館・領事館、あるいは外国人が経営するレストランや専門店への訪問も企画していきたいと考えています。また参加した外国人の故郷（母国）を訪ねる機会を作るのも有意義な企画になるだろうと思われます。

一方、交流部会員同士の親睦も大切であり、懇親会、談話会など適宜計画し、体力的に疲れても、精神的には疲れにくいボランティア・グループとして、部会員の輪も広げていくことを目指していく考えです。

●研修部会

*異文化を学び、国際交流の真髄を極める

市は平成26年度に多文化共生センター設置の計画をしています。研修部会では市が最も重要視している“在住外国人への学習機会の提供”の先行事業として、20年来、「日本語講座」を通年開講してきました。更に今年度は日本語講師ボランティア養成講座も開催します。

新企画として中国語講座とハングル講座を各1クラス増設し、レベル別各2クラスにしました。その結果、予想以上の応募が有り抽選せざるを得ませんでした。

外国人との意見交換の場とも言える毎年好評の「英会話サロン」や「外国文化に親しむサロン」も企画しました。これは外国人ゲストと参加者が様々なテーマについて対話し、お互いの理解と交流を深め合う事や語学力アップを目的にしています。研修部会の役割として市民及び外国人と語学、異文化を学ぶ事を通じ、また講演会も行い国際交流の神髄を極めて行きたいと思ひます。

●広報委員会

*KIFA活動活性化と周知へ情報発信基地に

広報委員会では、広報紙「KIFA Plaza」の発行とホームページの作成・管理を行っています。KIFA活動をより多くの市民へ伝える情報発信基地の役割を果たしています。広報委員会の活動は、紙面やホームページの作成といった情報発信はもとより、ご覧になった会員・市民の皆さんがKIFA活動に興味を持ち、一緒に活動に関わって下さることによって、より充実した活動に結び付くのではないかと考えています。

今年度は市内在住外国人への情報提供を課題として取り組みを検討していきたいと考えています。広報活動に興味のある方、経験がなくてもトライしてみたい方に、ぜひ、一緒に楽しく活動の輪を広げて頂きたいと思っています。

●青少年委員会

*ロングステイ再開へ、課題解決に努力

青少年委員会は、主に青少年を対象とした事業を行っています。今年度は5月26日にスタートした「スマイリーキッズ！」（子ども英会話講座）を皮切りに、昨年度好評だった「いろいろな国の言葉で楽しもう」のような国際理解を深めるイベントも予定しています。

海外体験交流事業として行ってきた姉妹都市ワカタネへの青少年ロングステイについて、昨年は両国で起きた地震で急遽取りやめ、本年度も安全・危機管理などの事情で行われません。なんとか来年度から再開できるよう、関係機関に働きかけていきたいと思っています。

一緒に活動してくださる、若くて意欲的なボランティアを募集しています。よく、「英語は必須ですか？」と尋ねられますが、そんなことはありません。いろんな活躍の場がありますので、やってみようかなと思われたら、是非、事務局までご連絡をお願いします。

2012年度の主な事業計画

◆広報事業

- ・「KIFA Plaza」発行 ・ホームページ更新

◆交流事業

- ・国際交流まつり・国際交流バスツアー
- ・外国家庭料理講習会・青少年多文化交流
- ・交流カフェ・世界を知る会

◆研修・講座事業

- ・外国語研修講座（年間30回開催）
- ・日本語講師養成講座（初級）
- ・外国人日本語講座
- ・英会話サロン（3回を予定）
- ・子ども英会話講座
- ◆ボランティア派遣事業
- ・市内諸団体、教育団体からの依頼により派遣

◆海外派遣・受け入れ事業

- ・ホームステイ・ビジットの受け入れ
- ・ロングステイ・交換留学事業
- ◆近隣諸団体との連携・交流
- ・東葛地区国際交流協会連絡協議会及び他市との交流
- ・千葉県国際交流連絡協議会へ参加
- ・鎌ヶ谷市姉妹都市交流委員会事業に協力
- ・鎌ヶ谷市多文化共生推進事業に協力——など

外国人への日本語指導、暮らしと困りごとを支援する

KIFAのボランティア派遣活動

鎌ケ谷市に在住し、日本語が十分でなく不自由な外国人が、より良き市民居住者として、地域生活に慣れ親しんでいただくために、KIFA活動の大事な柱として支援・派遣ボランティア事業があります。なかでも通訳ボランティアと日本語指導については、多文化共生事業を推進している市としても重視し、KIFA事業に期待している分野となっています。

◎通訳・翻訳ボランティア派遣

市民、行政からの依頼を受けた案件——例えば、外国人の行政窓口における手続きの付き添い、乳幼児健診、学校・保育園など入学・入園手続きの付き添い。市民からの短い外国文書の翻訳・和訳の依頼など——について登録ボランティアを派遣、対応しています。

現時点で通訳・翻訳できる言語と登録者数は英語23人、中国語9人、スペイン語3人、韓国・朝鮮語2人、フランス語、ポーランド語各1人となっています。

実際のボランティア活動や派遣・運用には、いろいろ課題があって、3月に開かれた「通訳ボランティア会議」で、1年の活動を振り返って、通訳ボランティアのあり方について、さまざまな意見が交わされました。

①依頼案件がボランティア翻訳にそぐわない（膨大なカタログ翻訳、特殊な専門文書、商用に供される）と思われる内容の扱い。②依頼内容、目的など把握して不適当なものは断る。③ボランティアのやるべき仕事の範囲を明らかにすべきだ。④受けるべきか否かを誰が判断するのか。⑤翻訳の場合、Wキャストにしたらどうか。⑥実施した通訳業務の内容を広報誌に掲載したらどうか。公開することによって、ボランティアとして不適切な依

頼を排除できる。通訳業務のPR効果にもなる。⑦翻訳の終了後、依頼者から何らかの反応が欲しい。（プライバシー問題が絡むので匿名を原則とする。したがって翻訳者へは事務局からの対応しか出来ない）——など、検討しなければならない課題は多いのが現状です。

また、ボランティアを超えて、アルバイトとして参加したい人が出てきた際の対応などあります。

◎災害時の通訳ボランティア活動

東日本大震災を契機として近い将来、発生するとされている首都圏大震災に備え、KIFAにおいても言語能力が不十分な外国人に対し、何らかの役に立てる方策を考えておかなければなりません。今回、通訳ボランティアへのアンケートでは多くの人が、そのような業務に対し興味を示されています。通訳ボランティアのメンバーで、検討会など開催する時期になっています。

市の安全対策課が考えている通訳ボランティアへの依頼事項は①避難所等での通訳②災害時の市民相談窓口開設時の通訳③市民に提供する防災資料の翻訳——となっています。

方法論として具体的になっているものは少なく、現場での臨機応変な対応を望んでいる模様です。

◎市内小・中学校へ日本語講師ボランティア派遣

2004年から教育委員会の依頼により、市内小・中学校へボランティアを派遣して、学校生活で必要な日本語理解のために、外国人児童生徒の指導にあたっています。

派遣されるボランティアは、研修部会が主催する「にほんご講座」を支えている、日本語講師ボランティア養成講座を修了、もしくは同等かそれ以上の技能をもつボランティアの皆さんです。現在6人が学校派遣ボランティアとして活動しており、昨年は5校（小学4、中学1）の児童・生徒8人に対して指導が行われました。児童・生徒の内訳は、フィリピン5人、中国1人、バングラデシュ1人、日本1人でした。

指導は児童・生徒に個別で対応し、日本語で日本語を教える直接指導が中心となっています。ボランティアは毎回、授業内容等を記録・提出し、児童・生徒の状況を担任と共有しながら、一日も早く日本語を習得し、楽しい学校生活を送ることができるよう尽力しています。

◎日本語講師ボランティア養成講座開講

外国人に日本語の指導してみませんか——。日本語指導の第一歩から学ぶ「みんなの日本語 初級Ⅰ」（スリーエーネットワーク）をテキストを使って、日本語の基礎会話（初級Ⅰ）の教授法を品川雅子先生を講師に招き



講師の品川先生と受講生の皆さん

7月21日（土）まで、鎌ケ谷市中央公民館で（全7回、10：00～13：00）開催されました。

◎外国人講師ボランティア派遣

異文化交流、多文化理解、地理、歴史、外国の暮らしの紹介など学校の国際理解授業、市民からの講演依頼を受け、依頼内容にあった外国人に（負担にならない程度で、小・中学校総合学習、幼稚園でのクリスマス会サンタクロース、交流会イベント）講師として活動していただく外国人ボランティアの派遣を行っています。

中国語とハングルは入門と初級の2講座

2012年度の語学研修講座合同開講式

2012年度の語学研修講座の合同開講式（4月にスタートしている日本語講座を除く）が5月20日（日）、総合福祉保健センターの大会議室において、英語1クラス、中国語2クラス（入門、初級）、ハングル2クラス（入門、初級）の受講生78人が出席して行われました。

今年度担当の3人の講師が紹介されたあと、教室担当紹介、注意事項伝達で開講式は終了となり、さっそく語学講座別に3グループに分かれ、年間30回の講座のうち、第1回目の授業を兼ねたオリエンテーションが行われました。

＊【英語】読書と映画鑑賞が趣味という英語のFrances Mejias（フランシス・メヒアス）先生。自己紹介や簡単なフレーズの発音練習、先生から受講生の聴解力を確認しながらの質問などがあり、また単語を使ったゲームで楽しみました。（写真上）

＊【中国語】旅行が趣味の胡丁毅（フ・ディンイ）先生。入門と初級の合同で自己紹介。すでに中国語の下地のある初級受講者は中国語で紹介です。合同授業の初回は中国語の基本的な発音や母音、子音についての授業が中心に行われていました。（写真中）

＊【ハングル】勉強と日本のドラマを見るのが好きという金英美（キム・ヨンミ）先生。韓国ドラマから好きなドラマや気になるセリフのアンケートをとりました。次回からの授業に活かされるようです。

また先生からお得意の日本語で韓国の歴史や文化、観光スポット、食べ物などの紹介がありました。（写真下）



笑顔で学ぶ「子ども英会話」

スマイリーキッズ開講

天候に恵まれた5月26日（土）、Aクラス12人、Bクラス12人、Cクラス6人の合計30人の小学生が集まり、英会話講座・スマイリーキッズがスタートしました。

今年度の講師を務めるのは、クリストファー・ミルズ先生（USA）、カイル・マレン先生（UK、7面参照）、クリストファー・ブラッキン先生（UK）の3人です。開講初日はクリストファー・ミルズ先生が授業を行いました。

会場に保護者と子どもたちが緊張気味で集まってきました。スタッフが「おはよう！ Good morning！」と声を掛けます。スタッフと保護者に助けられながら、ネームプレートに自分の名前をローマ字で書いて教室に向か

います。

Aクラスは英語でじゃんけんをしながら名詞と数を学びました。BクラスはFine・Good・Sleepy・Hungryなどのあいさつ表現をジェスチャーで覚えていきます。さらにCome・Good Luck・Good/Badなど、アメリカと日本のジェスチャーの違いも学びました。

Cクラスでは、Chantsを使い“Do you like ~”の表現を覚えていきます。最初はクリス先生に答えを求められて困ったり、恥ずかしそうな子どもたちでしたが、授業が進むとともに、自発的に手を挙げ、次第に声も大きくなっていきました。（注：Chants=英語学習方法の一つで、一定のリズムに乗せて英語文を歌のようにして、発音やイントネーションを練習して覚える。）

来年の2月6日の土曜日まで、25回の授業があります。途中、お楽しみ会やクリスマス会では、英語ゲームなどで、遊びながら学ぶ授業も用意されています。

イギリス滞在2年間
ワーキングホリデー

松永 愛音

.....

幼い頃から、西洋が舞台の物語を読むのが好きで、ヨーロッパで暮らすことに憧れていました。

あるとき、ワーキングホリデーという制度があることを知りました。年齢制限までに、絶対にイギリスに行こうと決心しました。イギリスを選んだのは、英語を話せるようになって、各国を旅してみたいという夢があったからです。



ロンドンの街・時計塔

「英語を話す夢」…イギリスで実現

☆憧れのロンドンへ

高校以来、英語を使う機会がなかった私には、言葉の壁が大きなものになりました。文法よりも会話ができるようになりたかったので、イギリスに着くとすぐに、会話と聞き取り、発音矯正を教える学校に行くことにしました。

レッスンは5～6人の生徒に、ネイティブの先生がすごい勢いでラウンドに質問を投げかけてきて、瞬時に Yes, No, I'm..., It's... などと答えなければならないという、一瞬たりとも気の緩められない内容でした。頭で日本語変換をしている間はありませんでした。始めのうちは、先生が何を言っているのか全く聞き取れず、かろうじて聞き取れても、うまく答えられなかったのが、長くて難しい質問が自分に当たりませんようにと、小さくなるばかりでした。

しかし、そのペースを毎日繰り返していると、わからなくても単語の意味を聞き返したり、もう一度言ってほしいなどと言えるようになり、英語を話すこと自体に抵抗がなくなってきました。そしてだんだんと街の雑音が単語や文章の断片として耳に入ってくるようになり、3カ月が経った頃に英語で夢を見て、自分でも驚きでした。

☆学校で得たもの、友だち

もうひとつ学校で得た、大きなものは友だちです。集まって国も言語も違う者同士が英語を使って、意思疎通ができるということは、とても感動的で、英語習得に対する大きなモチベーションになりました。そのときの仲間、今でも連絡を取り合う大切な存在になっています。

部屋探しは、インターネットの日本人向け掲示板を使いました。日本人は部屋をきれいに使うので大家さんには好評で、日本人の住んだ部屋は代々日本人に引き継がれる傾向がありました。あちこち物件を見て回りましたが結局、清潔さと環境のよさをとり、日本人とのフラットシェアを選びました。ただし大家さんは日本語を話せないで、質問や交渉ごと、問題が起きたときの説明などは英語でしなければなりませんでした。他人との共同



クラスメイトと一緒にの松永さん

生活にも、ストレスや戸惑うこともたくさんあり、家事情はやはり日本の生活が快適だと感じました。

☆アルバイトも体験

私の取得したユースモビリティビザはフルタイムの就労が認められていたので、せっかくならば仕事の経験をしたいと思っていました。

英語の履歴書は日本のように決まったフォームがないので、内容を

考えるのも一苦労でした。書いた履歴書を持ち歩き、気になるお店に一軒々々入っては、マネージャーに渡してくださいと言って置いて行きましたが、待てども待てども連絡はありませんでした。

しばらくしてやっと連絡が来たのは、念願のアロマショップでした。お店に寄るたびに、マネージャーに会わせてくださいと、スタッフに言っていたのが功を奏したようです。ところが面接当日は、緊張と聞き慣れない英語の質問に頭が真っ白になってしまい、せっかくのチャンスを活かせず悔しい思いをしました。

その後、現地の友だちに協力してもらいながら、何度も面接の練習をして、ようやくウェイトレスの仕事を得ることができました。わずか数カ月でしたが、この経験はかなりの自信になりました。

☆外に出て気付いた「日本の価値」

ロンドンで生活した2年間のなかで、日本が世界に与える影響力が、思っていたよりも遥かに大きかったことが一番の驚きでした。日本のさまざまな技術やアニメや映画、スポーツでの活躍、日本人の道徳観や独特の文化が世界で評価されていることを実感し、日本人に対する尊敬と誇り、勇気をもらいました。私はこれまで自分の国籍など意識したこともなかったのですが、ロンドンに住んでみて初めて「日本人」というアイデンティティを持つことができました。

(委員長コメント：松永さんは広報委員会活動を希望し、語学講座、キッズ英会話の開講式の写真撮影に参加していただきましたが、仕事の都合で県外へお引越されることになりました。とても残念です。)

日本との出会いはドラゴンボール

私はオランダ人でありイギリス人です。生まれた町は、オランダのヘルダーラント州（Gelderland）北部の都市・アペルドールン（Apeldoorn）の隣のウヘレン（Ugchelen）という町で、イギリス人の両親のもとに生まれました。大学1年のとき、両親の転職に伴いアメリカに渡るまでの19年間で、妹と一緒にウヘレンで暮らしました。

◎スーパーファミコンが日本との出会い

オランダの国土は、日本の九州ほどの広さで、人口は約1600万人です。ウヘレンは首都アムステルダムから86km離れた人口7100人の小さな村です。小学校は4歳から12歳までの8年間で、学校は家から5分の所にあり、全児童数は200人くらいでした。小学校でも点数が悪いと留年しなければなりません。私は幸いにも順調に卒業できました。その後6年間のセカンダリースクールに行きました。これは大学進学者のためのコースです。他に5年間で3年間のコースがあります。

オランダは税金がとても高いですが、学費や生活費は国が負担するので心配は要りません。両親とは英語だけの会話でしたが、私は自然に英語とオランダ語のバイリンガルに育ちました。また学校ではドイツ語を5年間、フランス語を6年間勉強しました。

◎アメリカの大学から日本語留学

日本との出会いは12歳のときにもらった、英語版スーパーファミコンでした。学校ではドラゴンボールやポケモンを見ないと話が合わなかったのです。しかし、16歳で接した日本語版のアニメでは、日本語が分からない。日本人の考え方も理解できなかったのも、アメリカの大学へ編入したとき、言語、文化の選択で日本語を選択しました。よく言われている曖昧な日本人の考え方は、オランダ人にも近いものがあると思いました。もっともオランダ人は、曖昧と言うよりはFlexible（柔軟、融通が利く）という表現の方が相応しいと思いますが。

大学3年のとき専修大学へ7週間の日本語留学、日本国内旅行に2週間ほど、計10週間の日本滞在をしました。アニメでは理解できなかった日本語について、多くのことを学ぶことができました。

オランダでは、自転車がとても大切です。車道、歩道の他に自転車専用道路もあります。子どもの頃は自転車の遊びをよくしました。週5日、毎日自転車で20kmから36km走りました。週に4日間走るとメダルがもらえました。役所は景色を楽しみながら自転車で走れるように、



カイル・マレンさん
オランダ・ウヘレン生まれ

◎趣味は走ることです

私は鎌ヶ谷市の小学校の英語専任講師です。

趣味は走ることです。子どもたちと校庭を走ったり、ジムで走ったりしています。生まれた家の近くの国立公園にはクレラー・ミュラー美術館という「ゴッホの森の美術館」がありました。オランダ生まれで世界に有名なゴッホの美術館ですが、交通の便が悪いせいか訪れる観光客は少ないです。子どもの頃よく森で遊びました。

日本で教員になったのは偶然のきっかけからですが、今は日本の生活を楽しんでいます。

写真左は12歳まで通った小学校です。右は生まれた家です。

いろいろなお勧めルートを作りました。オランダは地形的には道路が海より低いので、バンク（土手）が多くあります。バンク造りの優れた技術は日本のバンク造りにも活かされています。

◎おおらかで柔軟な国民性

オランダ人はあまり勤勉ではないような気がしますが、家族の生活をとても大切にします。どこの家でも夕方の6時ころには、家族全員が揃い夕食を摂らなければなりません。

オランダ人がよく使うGezelligという言葉が好きです。「皆で楽しんで気持ちを温かく、安らかに過ごそう」というような意味です。オランダ人の国民性はおおらかな気質と柔軟な考え方だと思います。

江戸時代、日本は鎖国していましたが、オランダは欧州で唯一、日本と外交関係を維持したことで知られます。宗教にも固執しないのです。今でも、いろいろ規制するより、合法化して危険回避策を徹底した方が良策だとする考え方なのです。

日本語の中に、オランダ語から来ている言葉がたくさんあります。蘭学、オランダ語によって西洋の医学のみならず、さまざまな学術がもたらされたことに由来します。ランドセル、ゴム、ビール、ボンズはオランダ語、半ドン、ドンもオランダ語のドンタク（休み）からです。日本とオランダには深い絆があるように思います。

鎌ヶ谷の生活も、オランダ流に何でもポジティブに考えています。



「外国文化に親しむサロン」 外国人から見た日本の“変”

わたしたちの日常の言動が外国人から見ると“変な感じ”——。韓国、アメリカ、中国、ロシア、セルビアの5カ国出身のゲストを招いて、日本人の生活や文化について感じていることを聞く、研修部会主催「外国文化に親しむサロン」が“ここが変だよ日本人”をテーマに2月10日、まなびいプラザ会議室で開かれました。初めに5人のゲストが基調スピーチ。日本人の暮らしの中で奇異に感じること、母国では考えられない習慣など、話題は多岐にわたりましたが要旨を紹介します。

(写真の左から発言順)



◎金英美（キム・ヨンミさん、韓国）

来日する前にテレビで日本のドラマを見て、子どもが親に対する荒い言葉遣いに驚いた。韓国では親に対して「うるさい」などとは決して言わない。父親は絶対的な存在で口応えはしない。また、一人暮らしでも家に帰ったとき「ただいま」というのはおかしい。ゴミの分別は韓国の方が厳しい。

◎Chris Millsさん（クリス・ミルズさん、アメリカ）

日本の学校では先生も生徒もTシャツで、服装がカジュアル過ぎる。アメリカでは教員は個別に部屋がある。日本では全教員が一部屋に机を並べている。教室の掃除も子どもたちがしているが、アメリカでは用務員がする。テレビドラマやCMで、女性がアルコールを飲むシーンがよくあるがアメリカではない。

◎成雅敏（チェン・ヤミンさん、カナダ国籍中国人）

日本の大学でも学び在日20年の成さん、理解できない日本人の生活習慣として「結婚式に黒い服で臨む」「溜めた湯の風呂に家族全員が入る」「曖昧な言い方が多い」「お辞儀が、いつまでも止まらない」と話した。しかし東日本大震災のときに、何も事件が起こらない、支えあう日本人の心の優しさはすばらしい。感動している。

◎ペーレゾフスカヤ・ナタリアさん（ロシア）

ロシアにいたとき、日本は変な国だと思っていたが、日本に長くなったいま、ロシアの方が変に見えてきた。女性専用電車は素晴らしいアイデアだが、ロシアでは女性が多く、男性専用電車になりそう。日本人は忙し過ぎる。“忙しい”は便利な言い分で私も使っている。お辞儀が多いのには閉口する。

◎ニコリッチ・細中・ネーナさん（セルビア）

大学講師も務めるスーパーレディーです。日本人は議論ができない。意見を言うと攻撃していると取られてしまう。学会でさえも議論がない。アジア人に対する態度と、ヨーロッパ人に対する態度が違う。また「日本人は清潔好きな人種である」ことは認めるが、私はその必要性を感じない。

日本のよさは、優しさと強さ、武道の伝統

基調スピーチの後、質問タイムに移り、①母国の主な宗教、皆さんから見た日本人の宗教観②日本人が誇っているもの——など質問がありました。

①について、逆にゲストから「どうして日本の僧侶は結婚が許されるのか」と質問がだされ、誰も答えることができませんでした。②については武道、歌舞伎、優しさと強さ、電車路線の多さ、伝統を守ることなどでした。

続いて、ゲストを囲んでのフリートークの時間となり、3つの大きな人の輪ができ、話はいつまでも尽きませんでした。

お知らせ

◆交流バスツアー 9月23日（日）

目的地：茨城方面。鹿島神宮、別荘館など。
詳細：市の広報8月15日付け掲載の予定

◆交流カフェ「ブータン王国」

日時：10月28日（日）の予定 1時～
会場：まなびいプラザを予定

◆第1回 英会話サロン

日時：9月9日（日）午後を予定
会場：まなびいプラザを予定

◆青少年多文化交流イベント

詳細については未定
イベントの詳細はHPと市の広報紙をご覧ください。

編集後記

「人が喜び元気になる姿を見る喜び」がボランティア活動の基本だと私は考える。ボランティア自身が楽しむのではなく、自分が出れることを行って、その結果が人々の一瞬でも幸せに通じれば、この上ない喜びであると思う。義務感やプロ意識はボランティアに必要なものか？そうではないと思う。迷惑なのは、肩書きや、名誉欲の見せかけのボランティアではないのでしょうか。

広報に携わって本物の新聞人のプロ意識の凄さに改めて「目からウロコが落ちる」であった。今私は我身を削っても良いものをお届けしたいという思いで、超プロの酷評に耐えながら原稿を作成している日々です。（K・F）

〈訂正〉前号・74号2面「国際交流まつり」の記事で、ソプラノ歌手・佐瀬光代さんのお名前が間違っていました。おわびします。